

## 環境審議会第1部会(平成26年8月27日開催)における計画骨子案の意見等への対応整理表

No.	委員名	該当箇所	意見等	対応案
1	河津委員	全般	(計画の位置づけ) 個別計画の統合ではなく、個別計画をリードする計画。計画の内容が個別計画に反映されるようなものにしてほしい。	この計画は体系的には個別計画の位置づけだが、計画の推進にあたって、庁内関係課の会議などを通して意見の趣旨を反映できるよう努める。
2	河津委員	全般	(素案作成にあたって) 骨子では、現状と課題の抜け落ち、論理の飛躍が見られるので、素案作成では検討してほしい。	計画素案の記述の際に留意する。
3	河津委員	全般	(全体的な整理) 施策の方向性の中には「担い手の確保」など各施策に共通するものもあるので、全体的に見直してほしい。俯瞰して抽出できる部分があれば、個別の施策の中でその部分に重点を置くといった考え方でまとめてほしい。	計画素案の記述の際、各施策ごとのバランスに留意する。
4	志賀委員	全般	(放射性物質) 放射性物質を取り除いて循環させるのであれば、施策の方向性に具体的に記述した方がよい。	循環において、すべての放射性物質を取り除くことは困難である。施策の方向性には、検査や情報発信等の放射性物質対策について記述する。
5	長林委員	第1章 (自然循環～)	(改定の趣旨) 自然循環の保全の箇所で、課題(森林、農作物、漁業)と施策の方向性(森林)の記述について、整合が図られていないところがある。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
6	後藤委員	第1章 (適正な資源循環～)	(低炭素社会の表現) 「低炭素社会」だけでは原子力推進も意味するので、「原子力に依存しない低炭素社会」と正確に表現した方がよい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
7	崎田委員	第1章 (適正な資源循環～)	(改定の趣旨) 適正な資源循環の箇所で、資源循環の話がなくエネルギーが突然でくるので違和感がある。 国の基本計画を参考に、資源の効率的活用と地域循環圏の構築について盛り込んでどうか。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
8	後藤委員	第1章 (心の豊かさ～)	(放射性物質に関する情報発信) 「情報発信をすれば不安を取り除ける」と受け取れる記述があるので改めた方がよい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。

No.	委員名	該当箇所	意見等	対応案
9	長林委員	第4章 (ビジョン)	(計画のビジョン) 将来的な目標だけではなく、計画期間内に達成すべき目標も記載したほうがよい。	条例の基本理念との関連もあり、計画のビジョンは現行のままとしている。施策の指標において、計画期間満了時の目標を設定している。
10	後藤委員	第4章 (ビジョンの図)	(循環型社会のビジョンに関する図) 循環型社会の図の中で、放射性物質は循環の輪から取り除く形に表現した方がよい。	自然循環、資源循環の中で行われる放射性物質対策の内容を踏まえて、図を修正する。
11	崎田委員	第5章 (施策体系の図)	(施策体系の図) 連携の話も踏まえ、施策体系図の表現を見直した方がよい。	よりわかりやすい表現となるよう、図の見直しを検討する。
12	山口委員	第6章 -1-①	(森林の整備等) 森林の伐採のみで造林しないことは問題。森林の多面的機能を保つには、計画の記載だけでなく、実際に施策を進めていくことが大切。	計画の推進にあたって、庁内関係課の会議などを通して意見の趣旨を反映できるよう努める。
13	稲森議長	第6章 -1-①	(森林の整備等) 里山の保全、植林の問題等を具体的に記述してほしい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
14	長林委員	第6章 -1-②	(エコファーマー) エコファーマーの認定が名ばかりの状況。課題として風評の改善を記述してほしい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
15	長林委員	第6章 -1-③	(水産資源) 沿岸漁業だけでなく、内水面漁業についても記述してほしい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
16	長林委員	第6章 -1-④	(水循環) 「水の効率的利用による環境負荷低減と保水機能」については分けて記述した方がよい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。

No.	委員名	該当箇所	意見等	対応案
17	稲森議長	第6章 -1-⑤	(猪苗代湖等) 具体的な施策には条例として義務化しているものもある。そうしたものをフォローアップして具体的な施策をまとめてほしい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
18	長林委員	第6章 -1-⑦	(緑化の推進) 震災対応による沿岸域の防風林復元、防災緑地の整備についても記述した方がよい。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
19	崎田委員	第6章 -2	(適正な資源循環の確保) 資源循環の視点が中心だが、リデュース、リユースを重視した3Rを強調した方が、廃棄物処理計画との違いが明確になる。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
20	稲森議長	第6章 -2-①	(資源・エネルギーの抑制) ものになるかどうかの問題もあるが、IGCC、CCSなど、新たな技術についても具体的な施策として記述していくことも大切。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
21	長林委員	第6章 -2-③	(交通円滑化) 渋滞緩和だけではなく、公共交通機関の利用を中心に記述すべき。	意見を踏まえ計画素案の記述内容を検討する。
22	崎田委員	第7章 -5	(連携) 行政内の連携だけでなく、産学官民の横の連携についても具体的に記述した方がよい。	庁内関係課と協議し、具体的な記述となるよう検討する。
23	清水委員	第7章 -5	(連携) 県内の横の連携については記述するの か。	庁内関係課と協議し、具体的な記述となるよう検討する。
24	稲森議長 大迫委員	第7章 -5	(連携) 連携の仕組みは簡単ではないかもしれないが、目に見える形で記述した方がよい。	図を用いるなど、わかりやすい表現となるよう検討する。